

ワークグループプラットフォーム

リリースノート

DemandWatch Pro 2023

ICMLive 2023

InfoAsset Manager 2023

InfoWorks ICM 2023

InfoWorks WS Pro 2023

IWLive Pro 2023

Innovyze®

Empowering water experts

目次

目次	1
はじめに	1
動作環境	1
インストーラ	2
ソフトウェアのインストール	4
サンプルデータのインストール	5
インストール終了後	5
サーバーデータベース	6
付録 A – ネットワーク単体サーバーのインストール	7
付録 B – データベースの更新	8
概要	8
付録 C – お問い合わせ先	9

はじめに

この文書には、以下の Innovyze ソフトウェアに対するリリースノートが含まれています：

- DemandWatch Pro 2023
- ICMLive 2023
- InfoAsset Manager 2023
- InfoWorks ICM 2023
- InfoWorks WS Pro 2023
- IWLIVE Pro 2023

このリリースノートでは、ソフトウェアのインストール方法やデータベースの更新方法等について簡単にご説明します。

動作環境

ソフトウェアは、以下の OS をサポートしています。Microsoft ® OS：

- Windows Server 2012 – (64 ビット)
- Windows Server 2012 R2 – (64 ビット)
- Windows Server 2016 – (64 ビット)
- Windows 8.1 – (64ビットのみ)
- Windows 10 – (64ビットのみ)

デスクトップ クライアントをインストールする際は、引き続きデスクトップ クライアントソフトウェアの 32 ビット版もインストールします。ご注意ください。

ソフトウェアは、Intel Itanium アーキテクチャと ARM アーキテクチャをサポートしておらず、また、Windows RT や Windows 10 S にインストールすることはできません。ご注意ください。

デスクトップ クライアントソフトウェアをインストールしている場合には、ソフトウェアをインストールする際に、Microsoft .NET framework の更新が必要となる場合があります。以下をご覧ください。

GIS 製品や SCADA システムを含む他社のソフトウェアと一緒に使用する場合や Oracle/SQL Server マスターデータベースを使用する場合は、それらのソフトウェアがお使いのプラットフォームでサポートされているかをメーカーにご確認ください。

こうした制約があるため、サポートされている Oracle と SQL Server のバージョンは、Oracle 11g、12c、18c、19c、SQL Server 2012、2014、2016、2017、2019 となります。

インストーラ

弊社が提供するソフトウェアのインストーラの拡張子は、実行ファイルとなります。ファイル名には番号が含まれ、この番号で製品とバージョンが識別できます。

ソフトウェアのインストールの観点からすると、インストーラは以下のように分けられます：

- DemandWatch Pro
- ICMLive、InfoWorks ICM、InfoAsset Manager
- InfoWorks WS Pro、IWLIVE Pro
- SetKey - サーバーでのライセンス設定に使用されるスタンドアロンプログラムです（基本的にはフローティングライセンスマネージャーと一緒にネットワークライセンスに使用されますが、ネットワークシングルに必要になることがあります）。

ワークグループデータベースのコンポーネントは InfoWorks ICM と InfoWorks WS Pro で同じバージョンとなります。

実行ファイルになっているインストーラについては、以下の点にご注意ください：

- システムの再起動がペンディングになっている場合、インストール前に完了する必要があります。
- 同じバージョンのダウングレードは、サポートされていません。このため、新しいバージョンを手作業でまずアンインストールする必要があります。
- サービスのアンインストール時には、システムの再起動が必要になることがあります。
- コマンドラインによる機能選択は、サポートされていません。

インストーラは以下の通りです:

DemandWatch Pro

DW64_2023_0_1.exe

ICMLive、InfoWorks ICM、InfoAsset Manager

これら全ての製品によって使用されるデスクトップソフトウェアは、「InfoWorks Workgroup Client」と称され、インストーラは、InnovyzeWorkgroupClientx64_XT_2023_0_1.exe です。

個別のインストーラを持つサーバーコンポーネントは以下の通りです:

InnovyzeRemoteAgentx64_2023_0_1.exe – Remote Agent

WorkgroupDataServerx64_2023_0_1.exe – Workgroup Data Server

「ライブ」製品には、追加のコンポーネントがあります:

DATALOADER_2023_0_1.exe – Data loader

LiveServer_2023_0_1.exe – Live server

InfoWorks WS Pro、IWLIVE Pro

これら全ての製品によって使用されるデスクトップソフトウェアは、「Water Supply Workgroup Client」と称され、インストーラは、IWX64_XT_2023_0_1.exe です。

個別のインストーラを持つサーバーコンポーネントは以下の通りです:

WorkgroupDataServerx64_2021_11.exe – Workgroup Data Server

IWRA64_2023_0_1.exe – Remote agent

IWLS64_2023_0_1.exe – IWLIVE Pro Server

SetKey

SETKEY_22010.exe

ソフトウェアのインストール

ソフトウェアのインストールには、アドミニストレータの権限が必要となります。

全製品について、単一マシンに複数のバージョンをインストールすることが可能です。互いに干渉することはありません。例えば、InfoWorks ICM の v10.5 と v11.0 を同じマシンにインストールすることが可能です。しかしながら、同じバージョンを複数インストールすることはできません。例えば、InfoWorks ICM v11.0 のベータ版と InfoWorks ICM v11.0 の正規版、あるいは、InfoWorks ICM v11.0 の初期リリース版とそのパッチリリース版を単一マシンにインストールすることはできません。

同様に、上記の各製品も互いに独立してインストールすることが可能です。

インストーラを起動する時に使用許諾契約に同意し、ソフトウェアをインストールする場所を選択してください。

InfoWorks をインストールする際には、以下の注意事項を必ずお読み下さい。

USBドングル

USB ドングルをお使いの場合は、ドングルドライバのインストール/削除前に PC から取り外して下さい。取り付けたままにしておくと、ドングルドライバのインストールができない場合があります。ドングルドライバのインストールプログラムが実行される際には、USB ドングルを取り除くよう警告メッセージが表示されます。

インストーラによりお使いのパソコンが再起動される場合には、インストーラが最初に開始された時と同じユーザー名とパスワードでログインする必要があります。

MapXtreme

このバージョンより、ソフトウェアは MapXtreme コンポーネントのバージョン 9.2 を使用します。これには、.NET runtime バージョン 4.7.2（client profile ではなく、full）以降が必要となります。従って、いずれかのデスクトップクライアントがインストールされているコンピュータでは、適切なバージョンの .NET runtime をインストールしている必要があります。インストールしていない場合には、Microsoft からダウンロードし、インストールする必要があります。Windows 10 を実行している場合には、デフォルトで含まれているため、インストールの必要はありません。

MapXtreme 9.2 と MapXtreme 8.1（InfoWorks ICM 10.5、InfoAsset Manager 2020.1、WS Pro 4.5 以前で使用）の間に互換性がないため、このバージョンをインストールすると、11.0 / 5.0 / 2020.2 より前の製品バージョンは WMS レイヤースで動作しなくなります。

ArcMap

このソフトウェアは 10.0 から 10.8 までのバージョンの ArcMap をサポートしていますが、バージョン 10.2 以前については

Esri によってポートが停止されていることに注意してください。InfoWorks にて ArcMap を使用するには、32 ビット版の Innovyzeソフトウェアを使用する必要があります。これは 64 ビット版のソフトウェアとともにインストールされます。

マスターデータベースとファイル複製

スタントアロデータベースは、Windows DFS により複製されるディレクトリには保存しないで下さい。また、Dropbox などのような複数の場所にファイルのバックアップを同期するシステムと一緒に使用しないで下さい。

InfoWorksの起動時に現在のポート契約に関するチェックが行われるようにInfoWorks の新バージョンリリース時にポート契約が有効であった場合にのみ、そのバージョンを使用することが可能です。以前のバージョンの使用についてはこの限りではありません。

サンプルデータのインストール

InfoWorks ICM、ICMLive に対して各 1 つずつ、合計 2 つのサンプルデータインストールがあります。サンプルデータを使用したい場合のみインストールして下さい。

チュートリアルデータは、移動可能データベースの形式（.icmt）でインストールされます。このデータのマスターデータベースへのバックアップ方法については、チュートリアル資料をご覧ください。

インストール終了後

ネットワークトンネルをお使いで、かつネットワーク上にネットワークトンネルサーバーを設定していない場合には、「付録A」をご覧ください。

ネットワークトンネルを用いてソフトウェアを使用している場合、ネットワークサーバーまたはローティングライセンスマネージャーの設定終了後には、Windowsの「スタート」メニューから「Licence key Setup」プログラムを実行する必要があります。このプログラムは、ライセンスタイプを設定するものとなります。この設定がきちんと行われていないと、ライセンスは認識されませんが、ローカルトンネルを使用している場合にはこのプログラムを実行する必要はありません。

ソフトウェアの前のバージョンを実行していたパソコンでネットワークトンネルを使用する場合には、今回のバージョンを使用するにあたり、「Licence Key Setup」プログラムを実行する必要があります。トンネルの設定は、前のバージョンから引き継がれることはありません。

以前にリリースされたソフトウェアが入っているもしくは入っていた PC に、このバージョンをインストールし初めて起動すると、これまでのバージョンで使用していた設定をそのまま適用するかどうかの確認メッセージが表示されます。適用される設定は、ローカルポートの場所、マスターデータベース、単位、オプションやレベルとなります。こういった設定は、ユーザー毎/PC 毎に設定されているため、

設定を適用してもすべての PC やユーザーに適用されるわけではありません。選択肢は、「Now」、「Later」、「Never」となります。「Now」を選択すると、すぐに設定が適用され、「Later」を選択すると、次回アプリケーションを起動したときに同じダイアログが表示されます。「Never」の場合は、ダイアログは二度と表示されません。

マスターデータベースの更新が必要になる場合があります。詳細は「付録 B」をご覧ください。

Windows の標準機能を使用してマスターデータベースをコピーし、原本とコピーしたもの両方を使用するのはお止め下さい。バージョンが異なっても同様です。何らかの理由でデータベースのコピーが必要となる場合には、弊社までお問い合わせ下さい。

サーバーデータベース

スタンドアロンデータベースとワークグループデータベースに加え一部の製品では、Oracle、SQL サーバーをサポートしています。

Oracle、Microsoft SQL データベースプラットフォームのインストールや更新については別文書に記載されています。

付録 A – ネットワークドングルサーバーのインストール

ソフトウェアでネットワークドングルを使用するには、ネットワーク上のパソコン(サーバー)にドングルを取り付け、適切なソフトウェアをそのパソコンにインストールする必要があります。

ネットワークドングルは、ネットワーク上の任意のパソコンに取り付けることが可能です。このパソコンそのものには、ソフトウェアをインストールする必要はなく、他の目的にそのままお使いいただいても問題ありません。（ネットワークドングルと「Licence Manager」はシステムリソースをほとんど消費しないため、非常にスペックの低いパソコンで使用しても結構です。）しかしながら、稀にしか再起動されないパソコンとする必要があります。このため、対象とするパソコンは、サーバーとして使用されているものにするとういでしょう。

ネットワークドングルに関する詳細については、「ドングル設定ガイド」をご覧ください。または弊社までお問い合わせ下さい。

付録 B – データベースの更新

概要

新機能の追加に伴って、データベースを更新して追加フィールドやテーブルを使用可能にする必要があります。

マスターデータベースを更新する際は、まずバックアップをお取り下さい。

InfoWorks ICM、InfoAsset Manager、ICMLive、WS Pro および IWLIVE Pro のデータベースの更新については、ワークグループデータベースアドミニストレーションガイドを参照して下さい。

付録 C – お問い合わせ先

ご不明な点があれば、江守情報サポート担当（iw-support@emori.co.jp）までお気軽にお問い合わせください。